

---

---

# NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.27 November, 2001

## 目次

企画案内.....	1
新 ICRP 勧告に対する保健物理学会意見.....	1
理事会報告.....	2
平成 13 年度第 4 回 .....	2
企画委員会報告 .....	2
平成 13 年度第 3 回 .....	2
編集委員会報告 .....	3
平成 13 年度第 1 回 .....	3
専門研究会報告 .....	4
若手研究会 .....	4
各種委員会.....	4
保健物理学会改革委員会の設置.....	4
非電離放射線研究検討委員会.....	4
学会掲示板.....	5
シンポジウムのご案内 .....	5
・独立行政法人放射線医学総合研究所	
第 1 回放射線安全研究センターシンポジウム	
「放射線安全研究の将来を考える」.....	5
・第 10 回東京大学原子力研究総合センターシ	
ンポジウム企画セッション( )「新しい放	
射線防護体系の論点」.....	6
新規専門研究会 募集案内.....	7
学会刊行物のご案内 .....	7
その他.....	7
NewsLetter への会員投稿のお願い.....	7
学会ニュースレター電子配布開始のお知らせ..	7

## 企画案内

### 「新 ICRP 勧告に対する保健物理学会意見」

ICRP 委員長であるクラーク博士の提唱を基に、新 ICRP 勧告に関する議論や検討が関連学会等の場において進められております。

保物学会においても、ICRP 勧告検討委員会を発足し新 ICRP 勧告に対する保健物理学会としての考え方を議論しております。この 8 月には「新 ICRP 勧告へ向けたクラーク提案に対する保健物理学会意見 - ICRP 勧告検討委員会中間報告案 - 」と称して委員会のとりまとめ状況を報告するとともに、参加者と活発な意見交換を行い、新 ICRP 勧告に対する議論を深めていきました。以来、保物学会以外の学会等の場でも当該勧告に関する議論が進められております。

そこで、新 ICRP 勧告に対する日本保健物理学会としての意見を集約し、日本における意見を当該勧告に反映させることを目的として、各方面でご活躍の先生方にご講演いただき、これまでの日本国内外における議論を基に、「新 ICRP 勧告」に関する議論をさらに深めていきたいと考えておりますので多数ご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

・ 日時：2001 年 12 月 17 日(月) 午後 1 時半～午後 4 時半

・ 場所：文京区シビックセンター多目的室(地下 1 階)

[ 文京区春日 1-16-21、03-3812-7111 ]

営団地下鉄丸の内線・南北線 後楽園駅徒歩 1 分  
都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅 徒歩 1 分  
JR 総武線 水道橋駅 徒歩 8 分

<http://www.city.bunkyo.tokyo.jp/shisetsu/civic/civics.html>

プログラム (13:30-16:30)

座長 金子正人(放射線影響協会)

1. OECD/NEA における ICRP 勧告に関する議論  
加藤正平(日本原子力研究所)

2. 新しい防護体系への考え方：ICRP 委員としての考え方及びこれまでの議論に基づく所見

ICRP 委員 小佐古敏荘（東京大学）

3. 総合討論

- (1) コメンテータによる新 ICRP 勧告に対する意見
- (2) ディスカッション

注) プログラム(内容)は、ICRP で行われている議論の状況により、若干変更になることがありますので、ご容赦ください。

参加費

会員 2000 円, 非会員 3000 円, 学生 1000 円

問い合わせ先

・サイクル機構 野村紀男

Email: nmomura@oec.jnc.go.jp

Tel: 029-267-4141(5214), Fax: 029-267-7174

・放医研 床次眞司

Email: tokonami@nirs.go.jp

Tel: 043-206-3105, Fax: 043-206-4098

注: 事前登録は不要です。当日、会場受付へ直接お越し下さい。

その記念行事の一環として、第 36 回研究発表会において記念式典及び特別講演等を実施することとした。

- 5. 韓国放射線防護学会との合同シンポジウムは今後 2 年ごとに日韓交互に開催することとした。
- 6. ICRP 勧告検討委員会から、8 月に開催されたシンポジウム(新 ICRP 勧告へ向けたクラーク提案に対する保健物理学会意見)の結果及び 9 月に開催された ICRP 委員会の内容を踏まえて中間報告書案を見直し、学会誌に掲載する予定であることが報告された。
- 7. 保健物理将来検討委員会の提案を実現するため、保健物理学会改革委員会を臨時委員会として設立(活動期間は平成 13 年 10 月から平成 14 年 9 月までの 1 年間)とすることとした。
- 8. 保健物理学会における資格認定制度の今後の取り組みの検討案が報告され、資格認定制度に対するニーズ、目的等についてさらに検討することとした。
- 9. 保健物理学会の部会制度についての提案があり、支部の設立、会計上の問題等を含め、改革委員会で検討することとした。
- 10. 名誉会員の推薦に関する内規案を承認した。
- 11. 規定類の不具合についての修正案を承認した。

(総務理事 原研 野口宏)

## 理事会報告

### 「平成 13 年度第 4 回理事会議事概要」

日時: 平成 13 年 9 月 17 日(月) 13:30~17:50

場所: 日本原子力発電(株) 大手町ビル A 会議室

出席者: 中村(会長)、甲斐、小佐古、小村、野口、野本、藤高、松林、水下、宮部、吉川、征矢(監事)、熊澤(事務局)

議事概要

- 1. ICRP の動向に関する秋の企画行事が 12 月 17 日に予定されていることが報告された。また、企画行事の内容をバラエティに富んだものにすることが要請された。
- 2. 学会誌の改革に関する会員へのアンケート調査を実施することとした。
- 3. 2002 年 6 月 6~7 日に金沢市で開催予定の第 36 回研究発表会について、要旨集は A4 サイズとすること、申し込みはインターネットで行えることなどが報告された。
- 4. 来年度が保健物理学会設立 40 周年にあたるため、

## 企画委員会報告

### 平成 13 年度第 3 回企画委員会

(平成 13 年 10 月 26 日)

出席者: 飯田孝夫(委員長)、松林秀彦、占部逸正(以上、企画担当理事)、緒方裕光、小川喜弘、上村佳嗣、鈴木昇一、床次眞司、野村紀男、宮崎振一郎、(以上、委員)、服部隆利(幹事、委員、インターネットグループ主査)

議事概要:

- 1) 保健物理学会シンポジウム「新 ICRP 勧告へ向けたクラーク提案に対する保健物理学会意見 ICRP 勧告検討委員会中間報告案」の実施報告がなされた。8/9 にシビックホールで開催。参加総数は 53 名であった。
- 2) 夏の学校の実施報告がなされた。8/23-24 に大阪中之島プラザで開催。参加総数は前回と同程度の 38 名であった。
- 3) 保物セミナー 2001 の報告がなされた。10/4-5 に、

大阪科学技術センターで開催。参加総数は約 200 名であった。最終的な報告会は 11/16 を予定しているため、本委員会には改めて報告する予定。

- 4) 12 月の企画行事の準備状況が報告された。12/17 に、シビックセンターで、フォローアップミーティング「新 ICRP 勧告に向けたクラーク提案に対する保健物理学会意見(仮題)」を計画中。場所と日程は確定した。コメンテータを加えた総合討論の時間を長くする方向で、企画案を修正することとなった。
- 5) 2-3 月の企画行事については、メインテーマを中性子とし、線量測定法、自然環境、加速器等を対象にして、2 月下旬から 3 月に東京で開催を計画することとなった。
- 6) 将来検討委員会の提言に対する会員の意見収集は 1 件のみであった。提言の具体化のため、改革委員会を組織し、10/18 に開催されることが紹介された。
- 7) 以下の専門研究会の活動状況が、下記の各委員より報告された。
  - ・ 放射線管理業務委託化専門研究会(幹事:土井代理)
  - ・ 人為的に高められた環境放射線専門研究会(床次)
  - ・ 自然放射線研究と公衆の放射線理解専門研究会(小川)
  - ・ 魅力ある保物 Web サイト専門研究会(野村)
 また、新規研究会の募集をニュースレターに掲載することとした。
- 8) インターネットグループから、ニュースレター郵送停止の受付状況が報告された。正会員は 8 月末で、国内 1068 名、海外 12 名。ニュースレターは、正会員のほか、名誉会員、学生会員、賛助会員に発送しており、そのうち郵送停止は約 300 件。ニュースレター No.26 は、875 件発送。今後、企画行事などでも、随時、郵送停止への協力のアナウンスを行っていくこととした。
- 9) 学会誌とニュースレターの調整について議論を行い、今後、編集委員会の特集企画と企画委員会の企画案のバッティングがないように調整するため、幹事が、編集委員会の幹事と、連絡調整をはかることとした。

(電中研 服部 隆利)

## 編集委員会報告

### 2001 年度第 1 回編集委員会議事録より

日 時 : 2001 年 6 月 1 日(金) 13:30 ~ 17:00

場 所 : 学会誌刊行センター - 会議室

出席者 : 小佐古委員長、小林、佐久間、高崎、高橋、土居、中山、伴、古川、本間、杉浦(旧委員会より) 中村委員長、山寺、山崎 苅田(事務局)

配布資料

- 資料 1 : 2000 年度第 4 回編集委員会議事録案  
 資料 2 : 保健物理投稿論文審査状況(2001.6.1)  
 資料 3 : 保健物理第 36 巻 2 号目次案  
 資料 4 : 企画記事進捗状況  
 資料 5 : 編集委員、査読者の専門分野

議 題

1. 自己紹介  
新旧合同委員会のため、自己紹介を行った。
2. オンラインサービスについて  
国立情報研究所(NACSIS-ELS:電子図書館サービス)および科学技術振興事業団(J-STAGE:科学技術情報発信・流通総合システム)から、システム・機能の概要、運用上の注意点等の説明を受けた。  
両者は概要としては同様であったが、利用者の制限、学会誌情報の提供手段等に若干の違いがあり、将来的な動向も考慮して、どちらを採用するか引き続き検討することとした。
3. 議事録の確認(資料 1)  
前回議事録を承認した。
4. 投稿論文審査状況(資料 2)  
投稿論文の審査状況を確認した。論文 12 件のうち、審査終了は 9 件、審査中が 3 件であった。
5. 36 巻 2 号の掲載予定(資料 3)  
解説記事 1 件は原稿の提出が遅れており、次号送りとなった。  
投稿規定及び投稿の手引きを 2 号に掲載するが、投稿資格等が改正となった点、審査をできるだけスピーディに行う点について、あわせて会務報告に掲載することとした。
6. 企画記事の進捗状況の確認(資料 4)と新テーマの検討  
企画記事の進捗状況を確認した。また、新たに企画記事を提案した(巻頭言 1 件、解説 2 件、話題 3 件、専門委員会報告 1 件、その他 2 件)。
7. 編集委員、査読者の一覧表の確認(資料 5)  
期が改まり若干名の委員の交替があったことに伴い、テーマ区分の担当委員の確認を行った。
8. 学会誌の今後の編集方針について  
オンラインサービスへの対応、将来問題検討委員会の提言もあり、編集委員会の期が改まったこの機会に、

学会誌をよりよいものとするため、編集方針について検討を行うこととした。具体的にはまず、広く学会員を対象にメール等の手段を用いたアンケート調査を行い、学会誌に対するニーズを探ることとした。アンケートの原案は、杉浦、高橋において作成することとした。

9. 次回開催予定、2001年8月29日(水) 13:30～(学会誌刊行センター会議室)

(東京大学 杉浦 紳行)

## 専門研究会報告

### 若手研究会報告

若手研究会では毎年恒例の夏期セミナーを開催しており、会員の関心事やその時々話題に関して自由に議論を行っています。今年度は「原子力エネルギー、原子力産業の将来」について、近畿大学渥美寿雄氏、関西電力森崎利恵子氏を講師の先生としてお招きし、下記により開催しましたので報告いたします。

テーマ：「原子力エネルギー、原子力産業の将来」

日時：平成13年9月8日(土) 13:30～18:00

場所：近畿大学原子力研究所

参加者：12名

プログラム

1. 人形峠 歴史と技術開発
2. 近大原子炉は今
3. 原子力産業の現状
4. なぜ原子力をやるんだろう

勉強会内容の詳細等は、会員の佐川宏幸氏(福山大)により学会誌にて報告させていただきますので、ぜひご一読下さい。

若手研究会では会員を広く募集しております。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格があります。ご関心のある方は下記の主査あるいは地区幹事まで、お気軽にご連絡下さい。

主査：稲垣昌代 近畿大学原子力研究所

TEL:06-6721-2332, FAX:06-6721-3743

E-mail: inagaki@ned.kindai.ac.jp

東地区幹事:大石哲也 日本原子力研究所 東海研究所

TEL:029-282-3569, FAX:029-282-6063

E-mail: tetsuya@frs.tokai.jaeri.go.jp

西地区幹事：佐瀬卓也 名古屋大学RI総合センター

TEL:052-789-2570, FAX:052-837-7902

E-mail: saze@info.human.nagoya-u.ac.jp

(近大原研 稲垣 昌代)

## 各種委員会

### 保健物理学会改革委員会の設置

本委員会は、平成11年度から12年度に活動した将来検討委員会の提言(12項目の提言：詳しくは学会誌Vol.36, No.3, 239-245参照)について、実現の具体的方策を検討・審議し、その実現を図ることを目的として、「保健物理学会改革委員会」の名称で平成13年10月に理事会直結の臨時委員会として設置された。

委員会は主査に水下誠一(原研)、幹事に松林秀彦(日立)、委員に赤羽恵一(大分看護科学大)、飯本武志(東大)、石樽信人(放医研)、斉藤公明(原研)、保田浩志(放医研)、吉川進(東電)の各氏からなる。この中で、赤羽、石樽、斉藤の各氏は前出の将来検討委員会の委員である。改革委員会の活動期間は平成13年10月から平成14年9月までの期間である。

改革委員会の具体的な活動は、将来検討委員会の提言を、学会の学術的位置づけ、研究発表活動の推進、学会の諸活動の活性化、社会的責任、国際的位置づけ等の観点から、さらには実現性の観点からそれぞれ検討を加えて、学会として実現を図る必要がある課題を選択し、短期的課題及び中・長期的課題に分け、必要に応じて学会員の意見をさらに求め、実現を図るべき課題を決定し、理事会、総会にその具体的方策を提案して、承認の得られた課題の実現を図るものである。すでに10月18日に第1回委員会を開き、将来検討委員会の提言の検討を開始した。

(原研 水下誠一)

### 非電離放射線研究検討委員会

第5回欧州生体電磁気学協会国際会議(EBEA 2001)

参加報告

2001年9月6日から9月8日にかけて、フィンランド(ヘルシンキ)のマリーナ会議センターにおいて、欧州生体電磁気学協会の第5回国際会議がおこなわれた。この会議は第1回が1992年にベルギー(ブリュッセル)で開催され、以後、1993年にスロベニア、1996年にフランス、1998年にクロアチアで開催されてきた歴史をもつ。

同時に2つのセッションが並行して設けられ、3日間でのべ72件の講演が行われた。また、ポスターセッションでは計69件の展示発表があった。参加者総数は約300名で、わが国からは15名の参加があった。セッションの各テーマはドシメトリ、細胞実験、動物実験、リスクコミュニケーション、疫学研究と人体実験、曝露評価、相互作用機序、無線通信、医療応用の9つであった。

IARC(国際がん研究機関)がまとめたELF磁界とがんリスクの関連性に対する最新の疫学調査の報告や、近々開始される携帯電話利用者に対する疫学調査活動についての発表が印象深かった。電磁界曝露の精密なドシメトリ評価が可能な最新のソフトウェア商品の宣伝を兼ねた発表や、電磁波対策グッズの効能を正当化しているようなあやしいポスター展示もあったが、おおむね議論は活発で、この分野でのヨーロッパの研究者達の活気が感じられた。

(宇都宮大学 上村佳嗣)

## 学会掲示板

### シンポジウムのご案内

#### 独立行政法人放射線医学総合研究所 第1回放射線安全研究センターシンポジウム 「放射線安全研究の将来を考える」

主催：独立行政法人放射線医学総合研究所

共催：日本放射線影響学会

日本保健物理学会

場所：放射線医学総合研究所講堂

日時：平成13年11月29日(木)・30日(金)

参加費：無料

#### プログラム

第1日目 11月29日(木)

- 理事長挨拶 (10:00~10:05)  
佐々木康人(放医研)

- 共催学会長挨拶 (10:05~10:15)  
日本放射線影響学会 丹羽太貫  
日本保健物理学会 中村尚司
- 基調講演 (10:15~11:00)  
・座長：小澤俊彦(放医研)  
放射線安全研究の在り方：放射線医学総合研究所  
理事長として、ICRP, UNSCEAR, 放射線審議委員として  
佐々木康人(放医研)
- テーマ1 (11:00~12:30)  
ヒトはどれだけ放射線を被ばくしているか?  
・座長：飯田孝夫(名大)  
1. 環境における放射線、放射能レベル  
岡野真治(放影協) (11:00~11:30)  
2. 環境中のラドンレベルと被曝線量  
山田裕司(放医研) (11:30~12:00)  
3. 特殊環境における放射線レベル  
藤高和信(放医研) (12:00~12:30)  
昼食 (12:30~13:30)
- 特別講演 (13:30~14:15)  
・座長：保田浩志(放医研)  
宇宙放射線環境がもたらす生物医学的影響  
長岡俊治(藤田保健衛生大)
- テーマ2 (14:15~17:10)  
放射線安全研究への様々なニーズ  
・座長：篠原邦彦(サイクル機構)  
1. 行政の立場から(放射線安全研究の行政ニーズ)  
中原 徹(文科省) (14:15~14:45)  
2. マスコミ(一般市民)の立場から - 開かれた研究であるため に何が必要か -  
矢田部雅嗣(NHK) (14:45~15:15)  
コーヒーブレイク (15:15~15:40)  
・座長：別所遊子(福井医大)  
3. 原子力の利用、研究開発の立場から  
松鶴秀夫(原研) (15:40~16:10)  
4. 医療の現場から  
菊地 透(自治医大) (16:10~16:40)  
5. 疫学の立場から  
秋葉澄伯(鹿児島大) (16:40~17:10)
- 懇親会 (17:30~19:00)  
重粒子治療推進棟 1階 食堂

第2日目 11月30日(金)

- 特別講演 (9:15~10:00)
  - ・座長: 下 道國 (放医研)
  - 原子力・放射線の利用と安全 - 原子力安全委員会の取り組み -
  - 松浦祥次郎 (原子力安全委員長)
- コーヒーブレイク (10:00~10:10)
- テーマ3 (10:10~11:40)
  - 放射線安全研究の現状と将来
  - ・座長: 神田玲子 (放医研)
  - 1. 放射線安全と放射線生物影響研究 - 今後の研究の方向性 -
  - 丹羽太貫 (京大) (10:10~10:55)
  - 2. 放射線防護と放射線安全研究
  - 甲斐倫明 (大分県立看護科学大学) (10:55~11:40)
  - 昼食 (11:40~12:40)
  - テーマ4 (12:40~14:10)
    - 放射線安全研究センターの研究
    - ・座長: 草間朋子 (大分県立看護科学大学)
    - 1. 放医研放射線安全研究センターの研究概要
    - 下 道國 (放医研) (12:40~12:55)
    - 2. 中性子線の生体影響に関する研究
    - 荻生俊昭 (放医研) (12:55~13:20)
    - 3. 放射線と生活環境要因による発がん - 複合効果
    - 島田義也 (放医研) (13:20~13:45)
    - 4. 継世代影響研究
    - 森明充興 (放医研) (13:45~14:10)
- テーマ5 (14:25~15:40)
  - パネルディスカッション
  - 今後の放射線安全性の方向性
  - (目的) 今後放医研の安全センターが目指す方向
  - ・司会: 荻生俊昭 (放医研) / 高橋千太郎 (放医研)
  - パネラー: 松原純子 (原子力安全委員)
  - 久保寺昭子 (元東京理科大)
  - 丹羽太貫 (京大) / 甲斐倫明 (大分大)
  - 松鶴秀夫 (原研) / 下 道國 (放医研)
- シンポジウムの総括閉会の辞 (15:40~15:55)

- 閉会の辞 (15:55~16:00)
- 小澤俊彦 (放医研)

**第10回東京大学原子力研究総合センターシンポジウム企画セッション( )「新しい放射線防護体系の論点」**

第10回東京大学原子力研究総合センターシンポジウムの2日目に、企画セッション( )「新しい放射線防護体系の論点」を開催することとなりました(日本原子力学会 保健物理・環境科学部会共催)。万障お繰り合わせの上、是非ご参加ください。お待ちしております。  
(<http://www.rcnst.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>)

**第10回東京大学原子力研究総合センターシンポジウム企画セッション( )「新しい放射線防護体系の論点」**

日時; 平成13年12月11日(火) 13時~17時  
場所; 東京大学山上会館(大会議室)  
; 本郷地区にあります  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/campus/map/index.html>  
共催; 日本原子力学会 保健物理・環境科学部会(保健物理小委員会)  
参加費; 無料(事前登録は不要です。当日直接会場へお越しください)

- セッション キーワードの整理(各15分) 座長: 飯本武志(東大)
- 講演1 正当化と最適化; 本間俊充(原研)
- 講演2 個人線量の制御; 二ツ川章二(アイソトープ協会)
- 講演3 環境分野における放射線防護; 松鶴秀夫(原研)

- セッション 新しい放射線防護体系の論点(各30分)
- 講演4 影響の視点から; 丹羽太貫(京大)
- 講演5 基本的枠組みの視点から; 小佐古敏荘(東大)

休憩 20分

- セッション 現場適用における論点(各15分) 座

長;杉浦紳之(東大)

講演6 電力 宮崎振一郎(関電)

講演7 医療 古賀佑彦(原安協)

講演8 大学・研究所 西澤邦秀(名大)

セッション 総合討論(70分)座長;小佐古敏荘(東大)

コメンテータ 熊澤 蕃(NUPEC) 他

### 新規専門研究会 募集案内

本学会では、各専門分野の特定のテーマに関して、会員が情報や意見の交換、調査、検討等を行い、その結果を会員に公表して学会を活性化できるように、専門研究会の設置が申請できます。活動期間は、原則2年間が限度で、申請内容は企画委員会にて審査した後、承認が得られれば、活動費として1年間10万円を上限に援助が受けられます。詳しくは、会員名簿に掲載されている企画委員会運営細則をご参照の上、是非、積極的な立案をお願い致します。

(企画委員会)

### 学会刊行物のご案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、学会事務センターにお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) 1,777 円 (19 部)
- 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書 (1998) 1,700 円 (61 部)
- 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) 2,000 円 (77 部)
- 4) 自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001) 1,700 円 (168 部)
- 5) 新・放射線の人体への影響(1993) 800 円(割引販売なし)

連絡先: 〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

学会センターC21

財団法人日本学会事務センター事業部

TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

E-mail: sub@bcasj.or.jp

## その他

### NewsLetter への会員投稿のお願い

Newsletter には放射線防護,放射線安全管理に関する情報・話題や意見,関連学会・研究会の開催案内などタイムリーな情報を掲載しています。Newsletter を会員相互の情報提供の場として利用していただくために,多くの会員からの積極的な原稿を期待しております。投稿内容などについては,日本保健物理学会事務局および最寄りの企画委員まで連絡ください。投稿原稿は電子メール(E-mail:jhps@wwwsoc.nacsis.ac.jp)で集め,企画委員会のインターネットグループによって編集印刷されます。

### 学会ニュースレター電子配布開始のお知らせ

日本保健物理学会では学会員の皆様に、年に3回(2001年度からは3,6,9,12月末を目途に年4回)ニュースレターを発行して郵送でお送りしております。昨今のコンピュータネットワークの発達により多数の方が学会のホームページ

(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/>)を閲覧できる環境にあり、ニュースレターもこちらのホームページからアクセスすることにより閲覧可能な状況にあります。

学会としましては、学会費の有効利用と経費節減のため今まで会員の皆様全員に郵送していたニュースレターの配布を、新しいニュースレターが発行された時点で学会ホームページに掲示し、その旨メーリングリストで会員の皆様にお知らせすることを基本とし、郵送によるニュースレターの配布は希望する方のみにお送りすることにしたいと考えております。

学会発行の印刷物によるニュースレターの郵送配布を停止してもかまわないという方は、お名前、会員番号(会員番号はニュースレターをお送りした封筒の宛先ラベルにありますのでそちらをご参照ください。)をご記入の上、ファックスまたは郵送にて以下の学会事務局まで返送するか、電子メールで [jhps@wwwsoc.nii.ac.jp](mailto:jhps@wwwsoc.nii.ac.jp) まで必要事項をご記入の上送信してください。電子メールで送信される方はサブジェクトに“郵送停止”と入れてください。

なお、学会のメーリングリストに加入して頂いている方には、新規ニュースレターが発行されホームページが更新されたことはお知らせできますが、メーリングリストに加入されていない方には更新のお知らせは届きません。メーリングリストへ加入していただければ、このようなニュースレターの発行のお知らせや、

---

---

学会からのお知らせをタイムリーに受け取ることも出来ますので、この機会に今まで加入していなかった方もメーリングリストへの加入もあわせてご検討いただければと思います。メーリングリスト加入の申し込みは、電子メールで [jhps@wwsoc.nii.ac.jp](mailto:jhps@wwsoc.nii.ac.jp) までお願いいたします。

【ニュースレター郵送停止承諾書 宛先】

〒113 8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センターC21 (財)日本学会事務センター 日本保健物理学会事務局 宛

FAX : 03-5814-5820, TEL : 03-5814-5801

E-mail : [jhps@wwsoc.nii.ac.jp](mailto:jhps@wwsoc.nii.ac.jp)

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木 敦雄 (金沢大・理・LLRL)